

## 女性の政治進出、民主主義、汚職の実証分析

根元専門ゼミナール第 3 部

経済学科 4 年 山崎理紗

### 要旨

本稿は、民主主義国家に限り、女性議員が多い国ほど汚職が少なく政治がクリーンであると主張し、統計分析による裏付けを行った研究である。

汚職に関する既存研究は多く、豊かさ、市民の自由、報道の自由、貿易の開放性などが汚職を減らす要因であるとわかった。この要因以外にも、女性議員の割合が多い国では、汚職が少なく政治的透明性が高いという研究があり注目した。

女性と汚職に関する既存研究では、民主主義国家でも権威主義国家でも女性議員の割合が多い国ほどクリーンな政治が行われているという単線的な理解がされてきた。だが、権威主義国家では、たとえ男性議員の政策志向と女性議員の政策志向が違っていても、それが政策に反映されない可能性があるということが無視されてきた。したがって、「民主主義国家下では、女性議員が多いほどその国の透明性に正の影響を与える。」という既存研究にない新たな仮説を立てた。

仮説を基に、被説明変数を国の透明性、説明変数を女性議員の割合とし、民主主義国家だけをサンプルに加えたモデルと、権威主義国家だけをサンプルに加えたモデルの二つにケース分けした、重回帰分析を行った。その結果、コントロール変数を考慮してもなお、女性議員の割合は民主主義体制のサンプル時のみ有意になり「民主主義国家下では、女性議員が多いほどその国の透明性に正の影響を与える。」という仮説と整合的な発見が統計分析から得ることができた。